

第22回小中学生新聞感想文コンクール
中学2年の部で最優秀賞



篠原 優奈さん



夏休みの間、毎日、新聞を
読んで題材を探した。その中
で「自分の人生と重なる部分
があった」と感じ、選んだ記
事が日常的に人工呼吸器やた
んの吸引が必要な「医療的ケ
ア児」の保育園入園が進んで
いるという内容だった。
体重が1500g未満の
「極低出生体重児」として生
まれ、2歳の時点では発達が
ゆっくりにあったということか
ら幼稚園に入園できなかった
過去があり、感想文では「私
達家族が社会から拒絶された
瞬間」と表現。幼少期の出来
事にもかかわらず、「入園で
きない」と言われて、「両親
が」悲しんでいたことや、そ
の時に言われたことをなぜか
覚えていた」という。
こうした経験から、新聞で
医療的ケアを必要とする子ど

医療的ケア児 社会で支援

もとその家族を社会で支援す
る取り組みが進んでいること
を知り、「自分たちのような
経験をする人が減っているこ
とをうれしく思う」と話す。
また、「いじめやさまざま
事情がある子どもたちを受け
入れる体制が必要」と、全
ての子どもの成長を支える社会
の実現を求めるようになった。

しのはら・ゆうなさん 山
梨英和中2年。南アルプス市。
14歳。

受賞については「これまで
賞を取ったことがなかったの
で、最優秀賞と聞いて驚いた」
と話し、母親も涙を流して喜
んだという。感想文は自身の
経験や医療的ケア児の支援体
制を切り口とし、子どもを巡
る福祉に発展。「今回の感想
文を通して読者に関心を持っ
てほしい」という思いで書き
切った。

もともと「考えをまとめる
ことが好き」で、宿題が終わ
った後などに新聞に目を通す
こともある。記事について考
えることは「読解力や思考力
が上がっていると思う」。今
後も「新聞を読む機会を増や
し、自分と結びつけながら考
えていきたい」と話している。

〈田辺彩子〉

2025.12.24

山梨日日新聞